

水産学部技術部の活動報告

丸儀雅孝*

Report on Activities of Technical Staff in Faculty of Fisheries, Kagoshima University.

Masataka Marugi*

Key words : technical support , training, activity

Abstract

Technical staff of Faculty of Fisheries, Kagoshima University provide support services to students in their education, research and fieldwork training. They also assist in the operation of various apparatus and equipment of the faculty. In addition, they are expected to improve their technical ability by engaging in self-training activities. Technical training programs, through lectures and presentations, are made available to motivate staff to do self-training.

水産学部は、水産学科および水産教員養成課程（現在、環境情報科学講座・漁業基礎工学講座・海洋社会科学講座・資源育成科学講座・資源利用科学講座の5講座から成るが平成19年度に改組の予定）、大学院水産学研究科（修士課程）、附属海洋資源環境教育研究センター（以下、海洋センターとする）や附属練習船かごしま丸等の教育研究施設を有している。

現在、水産学部の技術職員は11名である。このうち、2名が海洋センター東町ステーションに配置されている。10月より新たに1名の技術職員（伊藤麻美）が採用された。

平成15年度から学部全体の多様な技術的業務が効率

的に対応できるように、教室系及び施設系の技術職員の組織の統合に向けた準備作業を行ってきた。今年の10月に「技術職員室」が新設され、技術職員が統一された組織として、業務の合理化や責任体制の整備に努めてきた。

水産学部の技術職員は、教員の指導のもとに学生の実験・実習等の教育支援補助、機器類等の保守・点検・整備等の業務を行っている。水産学部では大型回流水槽および資源利用科学実習工場等の特殊な動力設備を伴う施設や小型舟艇を多数保有しているため、機械設備の保守点検業務は非常に重要である。また海洋センター（東町ステーションを含む）が実施するフィールド教育研究の

鹿児島大学水産学部技術職員 (Technical Staff of Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan)

* Corresponding author, Email: marugi@fish.kagoshima-u.ac.jp

支援や JICA 及び OFCF 研修での技術支援等の国際貢献など技術職員の学部業務は多岐にわたり、学部の教育研究の一端を担っている。

国立大学の法人化後、教育研究の高度化や専門化が進む中、技術職員は各自の技術能力及び各種資格や免許の取得を目指してきた。今後、技術職員は技術研修等を通じて自己能力の啓発と向上に努め、学部の教育研究活動の維持・発展のための技術支援ができるよう努めなければならない。

技術部活動の概要

1. 平成 17 年度 鹿児島県水産研究交流セミナー
期 日：平成 17 年 6 月 10 日
場 所：鹿児島大学水産学部大会議室
実施体制：鹿児島大学水産学部、鹿児島県水産技術センター
2. 平成 17 年度 国立大学法人鹿児島大学技術系技術職員研修
期 日：平成 17 年 9 月 2 日
場 所：鹿児島大学稲盛会館
実施体制：鹿児島大学総務部人事課・工学部技術部、農水産系学部技術部、桜ヶ丘地区技術部、附属農場・附属演習林技術部
報告題目および報告者：
「鹿児島湾鯨類目視調査計画『ハンドウイルカ』調査に参加して」
小平田栄一（水産学部技術部）
「ミナミハンドウイルカの個体識別調査」
児玉正二（水産学部技術部）
「甘藷焼酎蒸留廃液を配合したコンクリート強度に関する実験研究」
丸儀雅孝（水産学部技術部）・前村政博（工学部技術部）
3. 平成 17 年度 九州地区国立大学法人等技術専門職員研修
期 間：平成 17 年 9 月 6 日～9 月 9 日
場 所：国立大学法人佐賀大学
実施体制：国立大学法人佐賀大学
参 加 者：尾上敏幸
4. 平成 17 年度 学会誌掲載
論文題目および著者：
「メジナの誘引および摂餌行動に及ぼす焼酎蒸留残渣濃縮液の影響」
加世堂照男・尾上敏幸
学 会 誌：日本味と匂学会誌 (2005 年), 12(3): 391—394.
5. 平成 17 年度 鹿大ジャーナル掲載
題目および著者：
「東町の環境保全型複合エコ養殖」
加世堂照男・尾上敏幸
発 行：鹿大ジャーナル (2005 年), No. 168, pp. 6-9.
6. 平成 17 年度 JICA 国際研修事業への技術支援
実施体制：鹿児島大学水産学部
7. 平成 17 年度 OFCF 国際研修事業への技術支援
実施体制：鹿児島大学水産学部
8. 平成 17 年度 学部のオープンキャンパスへの技術支援
実施体制：鹿児島大学水産学部（技術職員全員）
9. 平成 18 年度 焼酎廃液コンクリートに関する研究報告会
期 日：平成 17 年 12 月 19 日
場 所：鹿児島大学水産学部
実施体制：鹿児島大学水産学部、東桜島漁業協同組合、タナカ漁網
10. 桜島漁業研究交流会
期 日：平成 18 年 1 月 30 日
場 所：桜島宇土集荷所
実施体制：鹿児島大学水産学部、東桜島漁業協同組合、タナカ漁網
11. 鹿児島大学水産学部公開講座 種子島における水産研究の動向
期 日：平成 18 年 3 月 6 日
場 所：西之表市役所会議室
実施体制：鹿児島大学水産学部、鹿児島県、西之表市、種子島漁業協同組合
報告題目および報告者：
「アサヒガニ放流かごの技術開発」
丸儀雅孝・安楽和彦・宍道弘敏・谷 和博・

東 輝・長野章一・児玉正二・並松 実

1 2. 地域貢献：開聞中学校生徒への漁業体験実習での講師

期 日：平成18年3月7日

場 所：かいゑい漁協

実施体制：鹿児島大学水産学部、開聞町、かいゑい漁協、鹿児島県加世田農林水産所

参 加 者：丸儀雅孝・長野章一

1 3. 鹿児島大学と民間等との共同研究報告会

期 日：平成18年3月10日

場 所：鹿児島県東町漁業協同組合

実施体制：鹿児島大学水産学部附属海洋環境資源教育研究センター・東町ステーション、東町漁業協同組合

(鹿児島大学と民間等との共同研究)

報告題目および報告者：

「東町養魚場の環境調査と診断」

加世堂照男・尾上敏幸

1 4. 平成18年度 第1回鹿児島大学焼酎学講座シンポジウム

「再生する焼酎粕 ～陸・人・海への有効活用～」

期 日：平成18年8月11日

場 所：鹿児島大学稲盛会館

実施体制：鹿児島大学

1 5. 平成18年度 国立大学法人鹿児島大学農・水産系学部技術部技術職員研修

期 間：平成18年9月4日～平成18年9月5日

場 所：研修会会場（水産学部講義棟22号室）

実施体制：鹿児島大学水産学部・鹿児島大学農水産系技術部



Fig. 1. A technical training program for technical staff.



Fig. 2. The marine-safety training course for JICA trainees.